

1. 単元名(主題) 「自分の興味・関心を掘り下げよう」

～プレ探究におけるテーマ選定と生成AIを活用した視野の拡張～

2. 本時の主題の概要および設定理由

「SS I (総合的な探究の時間)」では、生徒が「自分自身の進路や興味・関心」を社会や学術の諸問題と結びつけ、内発的な動機に基づいた「問い」を立てることを重視している。

前時においては、各自の情報端末を用いて「Wikiサーフィン」を行い、さらに生成AI(Gemini)にプロンプトを入力して、自らの関心に関連する現代社会の課題について多角的な「問いのヒント」を提案させた。

本時では、AIの提案を踏まえて「あえてAIを使わずに自分自身でじっくりと考える時間(アンカリングの回避)」を確保し、他者との対話を通じて自身の興味を再定義・構造化する。AIの出力を鵜呑みにせず、それを初期値として固定化させないプロセスを挟むことで、生徒主体の主体的な探究活動、ひいては今後の本格的な課題研究の強固な土台を築くことを目指して、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **関心の具体化と拡張:** 前時に生成したAIの提案をもとに、自身が納得できる点と疑問に思う点を区別し、興味・関心の核を自覚する。
- 2) **対話を通じた相互発信:** ペアワークを通じて自身の興味のある学問分野や社会的課題について他者に説明し、相互に肯定的なフィードバックを行うことで、客観的な視点を取り入れる。
- 3) **プレ探究の方向性確立:** 自身の興味・関心がどの学問分野に対応するかを理解し、事前調査フォームに明確に入力・提出できる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第01回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也／新興出版社啓林館／2021)
- 生徒用ワークシート: 『SS I -第01回ワークシート』(Google Classroomにて配信済み)
- 提出用フォーム: 『SS I 前期プレ探究テーマ事前調査フォーム』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) ガイダンスの復習をする。 前日のガイダンス内容を簡単に確認する。	『SS I 総探-第01回スライド』を提示し、前日のガイダンス内容(総合探究と情報 I の連携、プレ探究から専門的課題研究への流れ)を簡潔に振り返る。
5分	(2) 本時の目標と前時のワークを確認する。 本時の目標を把握し、各自の端末で前時のワーク内容を確認する。	- 本時のゴール(ワークシートの作成、およびテーマ事前調査フォームの提出)を提示する。 - Google Classroomから、各自に配信されている『SS I -第01回ワークシート』を開くよう指導する。 - 前時の活動(Wikiサーフィン、Geminiによる問いの生成)を振り返る。 - 前日の欠席者や作業が遅れている生徒に対しては、メイン担当以外の教員が個別に入力手順をサポートする。
20分	(3) 個人ワーク(AIの提案の分析、および自己熟考)を行う。 AIの提案をもとに、自分でじっくりと考える時間(アンカリングの回避)を設け、ワークシートに記入する。	『SS I 総探-第01回スライド』を使用し、AIの出力を初期値として思考を固定化させない「アンカリングの回避」の重要性を説明する。 - AIの提案のうち「納得した部分」と「納得いかない・難しい部分」を区別し、ワークシートの設問に沿って自分の言葉でまとめるよう指導する。 - 教員は机間巡視を行い、思考が停滞している生徒には、関心のある分野への素朴な問いかけを行い、言語化を促す。
10分	(4) ペアワーク(他者との共有・対話)を行う。 近くの席の生徒とペアになり、ワークシートに記入した内容を互いに説明する。相手の発表に対して肯定的な意見や感想を返す。	- ペア内で自分の興味や現代社会の課題について説明させ、相手には「否定的なフィードバックは避けること」「相手の面白いと感じた視点を伝えること」を徹底する。 - 他者の意見を取り入れることで、自身のテーマを客観視し、視野を広げる重要性を伝える。 - 机間巡視を行い、対話が活性化するように適宜介入やアドバイスを行う。
10分	(5) 事前調査フォームを入力・送信する。 Google Classroomから『SS I 前期プレ探究テーマ事前調査フォーム』を開き、入力・送信を行う。	『SS I 前期プレ探究テーマ事前調査フォーム』にアクセスさせ、期限内(原則本時内)での確実な提出を指導する。 - 回答内容は今後のチーム編成において他の生徒とも共有される旨を事前に伝え、表現や語彙に留意するよう促す。
3分	(6) 次回以降の予定を確認する。 本日のフォーム送信後の流れ、および次回の教室割の発表予定を確認する。	- 今回のフォームの回答をもとに、次回は興味のある分野に近い生徒同士で教室を割り当てることを説明する。 - 次回授業の教室割について、前日までにGoogle Classroom上で発表される旨を伝え、確認を促す。